平成 28 年度

九州共立大学
『地域貢献・連携事業』報告書

平成 29 年 4 月

地域連携推進室

「九州共立大学『地域貢献・連携事業』報告書」の刊行にあたって

九州共立大学　学長　奥田　俊博



九州共立大学は昭和４０（１９６５）年に誕生し、大学の基本的な機能である教育・研究だけでなく、地元の行政機関・市民・ＮＰＯ等と連携して大学の知的資源などの人材を開放し、≪地域と共に立つ大学≫を目指して地域貢献・連携に取り組んでいます。この度刊行される「平成２８年度　九州共立大学『地域貢献・連携事業』報告書」は、本学が取り組んでいる活動のうち、地域貢献・連携事業を中心にまとめたものです。

近年、大学等が自治体と連携し、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とした「地(知)の拠点整備事業(大学ＣＯＣ事業)」や、地域発展、産業界・他大学等との連携等の改革に全学的に取り組む私立大学等に対する支援を強化することを目的とした「私立大学等改革総合支援事業(タイプ２：地域発展)」が実施されています。

本学においては、今年度、北九州市とのスポーツ振興に関する包括連携協定を締結し、北九州市内の大学および北九州商工会議所等においても、継続して学生の地元定着促進等を推進することを目的とした「北九州・下関まなびとぴあ」に取り組んでいます。今後も、上記の高等教育行政の施策を念頭に置いて、学生と教職員が共に立ちながら、地域社会との連携をより一層深めてまいる所存です。今回の報告書が、この拡充の後押しに寄与すると信じています。

今後の地域連携の飛躍を誓って

九州共立大学　特任教授　田中　邦博
（兼）地域連携推進室長
（兼）共通教育センター所長



本学は、地域連携・社会貢献を教育・研究とともに大学使命の重要な柱と位置付け、その役割を担う窓口として、平成27年4月に地域連携推進室を開設し、地域連携・社会貢献への取組みを総合的かつ組織的にスタートさせました。同年、北九州市体育協会、岡垣町、北九州商工会議所、北九州市教育委員会と連携協定を締結し、これらの協定先と17項目からなる地域連携事業プランを策定しました。「平成28年は、協定先との絆を深めるため事業プランの強力推進を合言葉に、学生と教職員が一体となって事業に取組みました。この報告書にはその活動状況及び成果がまとめられています。学生及び教職員の奮闘振りをご覧いただければ幸甚です。

さらに、今年1月には、「本学と北九州市によるスポーツの振興及びスポーツによるまちのにぎわいづくり並びに人材育成等に関して連携・協力するための包括連携協定」締結が実現しました。本学が有する教育・研究両面での人的・物的資源が、北九州市の地域活性化や若者サポートに寄与できるように、今後ともその役割と責任を果たしてまいります。

今後の大学教育は、学外に飛び出して地域・社会をフィールドとしたボランティア活動や地域活動等の実践教育が重要かつ不可欠です。連携の輪が更に広く、多くの地域に広がることを願って、皆様の更なるご支援をお願いいたします。

目　　次

《地域貢献事業》

1.【堀川まちおこし実行委員会】

・学生主体による「堀川」活性化・PRプログラム … 1

・第15回　堀川いっせい清掃 … 2

2.【北九州市教育委員会】

・部活動外部講師派遣事業 … 7

3.【北九州市体育協会】

・「体育施設管理士」「体育施設運営士」養成講習会及び資格認定試験 … 8

4.【八幡西区役所　保健福祉課】

・脳活性化教室修了者の介護予防支援 … 10

5.【北九州商工会議所】

・若松まちゼミ … 12

・若松がんばろう会 … 15

・若松みなと祭り … 17

6.【岡垣町】

・核兵器廃絶　平和の町宣言事業 … 19

・「まちの魅力発見」（「広報おかがき」特集記事の企画） … 21

・「地域活性化新聞（岡垣歴史新聞）」プロジェクト … 23

・岡垣サンリーアイ　こどもキャンプ3 … 25

・ボランティア交流会 … 27

目　　次

《人材育成・共同研究事業》

1. ワークショップA（セパレート方式・JR九州） … 28

2. ワークショップA（セパレート方式・就労継続支援B型事業所 ワークなごみ） … 29

3.「北九州ゆめみらいワーク2016～わたしたちの“しごと”と“まなび”をかんがえよう～」 … 30

4. シニア健康教室 … 32

5. 地域交流事業 … 34

6. JR九州ウォーキング … 35

7. 黒崎こども商店街2016 … 36

8. 大学とNPOの交流会 … 38

9. 小学生ハンドボール教室 … 39

10. 小学校ボランティア … 41

11. 部活動指導補助ボランティア … 43

12. 香月・千代ジュニアスポーツ体験教室 … 44

13. 知的障がい・発達障がい児を対象とした「ニコニコ体操教室」 … 46

14. 子どもから高齢者までだれもができる「アダプテッド・スポーツ」を体験!! … 49

15. ラジオ体操&レクリエーション指導 … 50

16. 「太陽光と風力を利用した親子ものづくり教室」 … 52

17. 健康運動指導士養成講習会 … 55

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28年度
主催・事業名		主　催：九州共立大学・堀川まちおこし実行委員会 事業名：学生主体による「堀川」活性化・PR プロジェクト
九州共立大学	事業責任者	工藤浩（ちょボラ部部長）、梅田勝利（同部副部長）、堂野崎融（同部副部長）
	所　　属	共通教育センター、経済学部
	実施担当者	北郷直人、樋口竜一郎、中野航希
	所　　属	経済学部３年、２年
	連 絡 先	《電話番号》０９３－６９３－３０６０、０９３－６９３－３２１１ 《 E-mail 》kudoh@kyukyo-u.ac.jp、umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》堀川まちおこし実行委員会（構成団体：八幡西区、中間市、水巻町） 《職・氏名》八幡西区役所区次長・塚崎修 《電話番号》093-642-1441（八幡西区役所コミュニティ支援課） 《 E-mail 》yasuyuki_okumura01@city.kitakyushu.lg.jp
事業実施日・回数		９月１１日、２４日、１０月２日など《計１２回》
実施場所		九州共立大学、コムシティ、堀川（水巻地区、中間地区、折尾地区）など
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：経済学部（日本人学生、中国人留学生）・スポーツ学部の学生 事業対象者：ちょボラ部 参加者人数：ちょボラ部員、顧問３名
経　　費		なし
事業内容 実績及び効果		1.　事業目的・内容等 堀川まちおこし事業は、灌漑や水運を通して流域の繁栄に貢献した、堀川の歴史的価値を再認識するとともに、堀川を「まちづくり・まちおこし」の素材として捉え、新たな視点や発想から堀川の魅力ある風景を創出することを目的としている。また、同時に、多くの住民が参加できる事業を展開し、郷土の川に対する愛着心を流域全体で育み、魅力と活力あふれる地域づくりを、２市１町が一体となって推進していく。本プロジェクトは、本学と堀川まちおこし実行委員会が連携をして、学生主体による「堀川」活性化・PR イベント等を企画・実行するという PBL である。 2.　実績 本プロジェクトでは、堀川について学び、堀川の存在や歴史的価値について、広く周知させる事業を実施することを目的として、①堀川ニューズレター作成、②堀川 PR 映像作成の２点を企画・実行する。そのため、まずは堀川流域の現状と課題の把握を目的として、第１５回堀川いっせい清掃参加者に対して、９月１１日（日）水巻地区、９月２４日（土）中間地区、１０月２日（日）折尾地区において、堀川まちおこしへの意識調査に関するアンケート調査を行った。１２月５日現在においては、その調査結果について、分析を行っているところである。 3.　効果 PBL として実施したアンケート調査の実施やその分析は、参加学生に有益な経験を積ませると同時に、授業と実習の両輪の重要性を再認識させる良い機会となっている。
今後の改善内容 及び展開		本プロジェクトを実績として、当該地域だけではなく、他地域にも同様のプロジェクトを提案し、今後もアクティブ・ラーニングの視点を意識しながら実施する。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28年度
主催・事業名		主　催：堀川まちおこし実行委員会 事業名：第１５回堀川いっせい清掃
九州共立大学	事業責任者	工藤浩（ちょボラ部部長）、梅田勝利（同部副部長）、堂野崎融（同部副部長）
	所　　属	共通教育センター、経済学部
	実施担当者	北郷直人、樋口竜一郎、任寧（ニン・ネイ）
	所　　属	経済学部４年、３年
	連 絡 先	《電話番号》０９３－６９３－３０６０、０９３－６９３－３２１１ 《 E-mail 》kudoh@kyukyo-u.ac.jp、umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》堀川まちおこし実行委員会（構成団体：八幡西区、中間市、水巻町） 《職・氏名》八幡西区役所区次長・塚崎修 《電話番号》093-642-1441（八幡西区役所コミュニティ支援課） 《 E-mail 》yasuyuki_okumura01@city.kitakyushu.lg.jp
事業実施日・回数		７月１５日・９月２１日・９月２８日・１０月２日《計４回》
実施場所		折尾商連、丸和ビル４F 会議室、堀川（折尾地区）
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：経済学部（日本人学生、中国人留学生）・スポーツ学部の学生 事業対象者：ちょボラ部 参加者人数：１５名（顧問３名、参加部員１２名（うち留学生４名））
経　　費		なし
事業内容 実績及び効果		1.　事業目的・内容等 堀川いっせい清掃は、①堀川の大切さを多くの人と共有する、②ふるさとを愛する心をはぐくむ、③モラルとマナーを向上させ、堀川をきれいな川に再生させるという３つのスローガンのもと実施される地域イベントである。清掃活動を通じてふるさとの自然やまちを愛する心を広げ、地域の環境に対する意識の向上を図っている。折尾地区参加団体として、ちょボラ部は川中と川上の清掃を行った。 2.　実績 １０月２日（日）、第１５回堀川いっせい清掃に、ちょボラ部の学生１２名と顧問の教員３名が参加した。８時３０分にNTT 横道路予定地に集合した後、９時から、堀川下流（B 班）として、JR 折尾駅東口からくぐり橋まで、実際に堀川の中に入り、清掃を行った。当該イベントに参加したことにより、ちょボラ部員同士による地域の環境に対する意識の向上が図られると共に、日本人学生と中国人留学生の国際交流も図ることができた。その後のミーティングでは、本活動を今後も継続的に実施することを確認した。さらに、ちょボラ部の今後の本活動のあり方にまで議論が進んだ。 3.　効果 本学学生にボランティア活動への参加経験を積ませると同時に、地域社会との連携や交流を推進した。本学のカリキュラムポリシーで育成を図っている、両学部共通のコミュニケーション能力や経済学部の実践力の向上、スポーツ学部の協調性や社会性の涵養など、自律・自立できる社会人としての基礎固めが促進された。また、中国人留学生にとっては新鮮な経験であり、日本文化への理解と関心が高まった。
今後の改善内容 及び展開		新入部員の勧誘を強化し、次年度以降も引き続き参加することでボランティア活動への参加実績をあげると共に、地域への愛着心を高める。

「第 15 回堀川いっせい清掃」



年　　度		平成 28 年度
主催・事業名		主　催：北九州市八幡西区総務企画課・中間市役所企画政策課・水巻町企画財政課・福岡県北九州市県土整備事務所・北九州市環境局 ＊地元堀川まちおこし実行委員会　＊地元５大学の学生協議会 事業名：地域経済活性化事業：平成 28 年度北九州市八幡西区「堀川まちおこし事業ー堀川まちおこしいっせい清掃ー」
九州共立大学	事業責任者	末永勝昭
	所　　属	経済学部
	実施担当者	末永勝昭
	所　　属	経済学部
	連　絡　先	《電話番号》研究室：093 - 693 - 3208　　携帯電話：090 - 1160 - 9565 《 E-mail 》suena@kyukyo - u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》北九州市八幡西区役所コミュニティ支援課 《職・氏名》八幡西区次長　塚崎　修　コミュニティ支援課　高向　徹　奥村　泰行 《電話番号》093 - 642 - 1441 《 E-mail 》yasuyuki_okumura01@city.kitakyushu.lg.jp
事業実施日・回数		10 月2日　　《計１回》
実施場所		北九州市八幡西区折尾・中間市・水巻町の「堀川」流域一帯
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：八幡西区まちおこし実行委員：末永勝昭、学生：25 名 **事前企画会議**：計５回（共立大教員１人、学生２名：西区役所、地元商店街連合代表、地元各代表者、地元大学代表、他） **事業対象者**：八幡西区役所、折尾商連、地元５大学、高校、地元自治区会、子供会、婦人会、青年部、NPO 法人 JR 折尾駅、企業、折尾警察署、八幡西消防団、他
経　　費		北九州市事業費、その他
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 【目的】 灌漑や水運を通して流域の繁栄に貢献した「堀川」の一斉清掃事業を通して、堀川の歴史的価値を再認識すると共に、堀川流域（折尾・中間市・水巻町）のまちおこし・地域活性化を目指す。 【内容】 堀川流域の一斉清掃 毎年、上記の各団体と連携と取りながら地域参加型の清掃活動を行っている。併せて、地域との連携の下、地域参加、地域貢献事業をはじめ大学間交流・地域の人々との交流をも目指している。 2．関連事業 平成 28 年度「堀川を知るバスツアー」事業への参加（予定）。 ＊世界遺産「八幡製鉄所」及び関連施設、歴史遺産「堀川」を巡るバスツアー。 ①実施・企画窓口：北九州市 八幡西区役所　コミュニティ支援課 ②実施日時：平成 28 年３月（予定） ③本学の参加形態：折尾地区の見学コースとして本学共立大学への立ち寄り、及び施設の提供。また、本学のまちおこし事業のプレゼンテーションを実施し、関連資料を配布（予定）。 3．実績 【清掃事業：企画・事前打ち合わせ会議】計５回 共立大教員１人（実行委員：末永勝昭）、学生２名：西区役所、地元商店街連合代表、地元各代表者、地元大学代表、他）

	4．効果 （1）参加学生にとって、企画会議や清掃活動を通じて地域との連携が緊密に取れるようになった。 （2）清掃事業や研究会等を通して、地域活性化事業の実態を知ることができ、「地域活性化」や「まちおこし」のノウハウを学ぶことが出来た。 （3）北九州市等々の行政自治体や地域団体との連携・ネットワーク化が図れた。 （4）地元の人達に、福原学園・九州共立大学の存在をPRできた。 5．総括 「堀川まちおこし事業」への参加を通じて、地域連携事業に関する研究を深めることが出来、地域が抱える諸課題について理解を深めることが出来た。 今後の課題として、世界遺産「八幡製鉄所」及び関連施設、歴史遺産「堀川」を基軸とした《地域活性化＆魅力ある未来都市づくり》事業をより深化させていく必要がある。学園都市・学生の街「折尾」の顔と北部九州の交通の要衝として我が国日本の近代化を支えてきた「折尾駅」の研究を進めていくことが必須の要件になるものと考えられる。 今後のさらなる地域連携と地域活性化・まちおこし事業の学術的な研究活動を進めていくことが、本事業の喫緊の課題になるものと考えられる。
今後の改善内容 及び展開	経済学部のカリキュラムに、「地域活性化プログラム」（仮称）を導入して、一般学生が授業科目を通じて地域社会における課題を学習し、課題解決の為の実践的活動を行える機会（受け皿）を設けていくことも必要と思われる。

「第 15 回堀川いっせい清掃」





九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28 年度
主催・事業名		主　催：北九州市教育委員会 事業名：部活動学部講師派遣
九州共立大学	事業責任者	田中　邦博
	所　　属	共通教育センター所長・地域連携推進室長
	実施担当者	橋本　チエミ
	所　　属	地域連携推進室
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3255 《 E-mail 》renkei-2015@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》北九州市教育委員会指導第二課 《職・氏名》田中　彰一 《電話番号》093-582-2367 《 E-mail 》shouichi_tanaka01@city.kitakyushu.lg.jp
事業実施日・回数		月　日・　月　日・　月　日・　月　日　　《計　　回》
実施場所		浅川中学校、折尾中学校、則松中学校、洞北中学校
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学： ボランティア学生：経済学部　　０　名、スポーツ学部　４　名　計　４　名
経　　費		謝金は１回 2,000 円、月上限 10,000 円
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 各競技で専門性も持つ学生が、近隣の中学校で部活動外部講師として指導にあたることから九州共立大学との連携事業を推進する。 2. 実績 浅川中学校（陸上部）スポーツ学部４年 折尾中学校（野球部）スポーツ学部４年 則松中学校（野球部）スポーツ学部３年 洞北中学校（野球部）スポーツ学部３年 3. 効果 学生全員が将来教員を目指しており、中学生の学校での様子がよくわかり、また現場の先生方の動きなどを見聞きすることができ、参考になった。
今後の改善内容 及び展開		10 名の枠があるため、条件の見直しや参加学生の募集が検討課題となる。 （交通費は学生負担、保険は北九州市教育委員会の負担）

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		２８年度
主催・事業名		主　催：公益財団法人北九州市体育協会・九州共立大学・ 公益財団法人日本体育施設協会 事業名：平成２８年度年度公益財団法人日本体育施設協会認定 「体育施設管理士養成講習会・資格認定試験」
九州共立大学	事業責任者	長野　史尚
	所　　属	経済学部
	実施担当者	長野　史尚
	所　　属	経済学部
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3021 《 E-mail 》fn@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》公益財団法人北九州市体育協会 《職・氏名》事務局長　島田　清 《電話番号》（093）652-5007
事業実施日・回数		８月２３日～２５日（３日間１６．５時間）　２６日（認定試験１２０分）
実施場所		九州共立大学第１学舎
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学： ボランティア学生：経済学部　　０名、スポーツ学部　０名　計　　０名 事業対象者：体育施設管理士資格を目指す者 参加者人数：１８名
経　　費		生涯学習研究センターの事業として行った。
事業内容 実績及び効果		１．事業目的・内容等 体育施設の維持管理・運営に関する総合的な知識を習得することによって、体育施設管理者の資質向上とともに、わが国の体育・スポーツの振興に寄与することを目的とし、屋外スポーツ施設、体育館・武道館、水泳プール、音響、照明、スポーツフロアー、用器具、芝生など体育・スポーツ施設全般の維持管理に関する総合的な知識を有して、スポーツ施設の管理者として努める者の育成を目指す。 九州で一般向けの講習会・資格試験は初開催となる。 ２．実績 九州共立大学経済学部所属の教員５名（新井智教授、森江由美子准教授、森部昌広特別客員准教授、森誠護講師、長野）と非常勤講師（上村英樹氏、安枝祐司氏、白川憲一氏）の協力により、１８名の参加者に対して講習会を実施した。 ２６日の資格認定試験は公益財団法人日本体育施設協会より古賀氏が試験監督として来校した。 受講生は福岡・長崎・熊本・宮崎・香川からの参加であった。 ３．効果 受講生 18 名と本学正課授業（認定講座）からの認定試験受験希望者３名の２１名が試験を受け、２１名全てが合格を果たした。 今後、北九州を始めとして各地で体育施設管理士の資格を取得した人材が活躍することが期待できる。
今後の改善内容 及び展開		・開催期日についての検討 ・受講者数を増やす工夫 ・事業形態の再検討（事務局をどうするか等） ・その他

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		２８年度
主催・事業名		主　催：公益財団法人北九州市体育協会・九州共立大学・ 公益財団法人日本体育施設協会 事業名：平成２８年度年度公益財団法人日本体育施設協会認定 「体育施設運営士養成講習会・資格認定試験」
九州共立大学	事業責任者	長野　史尚
	所　　属	経済学部
	実施担当者	長野　史尚
	所　　属	経済学部
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3021 《 E-mail 》fn@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》公益財団法人北九州市体育協会 《職・氏名》事務局長　島田　清 《電話番号》（093）652-5007]
事業実施日・回数		２月２１日～２３日（２日間１２時間）　２４日（認定試験６０分）
実施場所		九州共立大学第１学舎
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学： ボランティア学生：経済学部　　０名、スポーツ学部　０名　計　　０名 事業対象者：体育施設管理士資格を目指す者 参加者人数：１５名
経　　費		生涯学習研究センターの事業として行った。
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 体育施設の管理運営に必要な知識・技能を習得することによって、指定管理者制度や事業運営等に対応できるマネジメント能力の向上を図ると同時に、わが国の体育・スポーツの振興に寄与することを目的とし、マネジメント、顧客管理、広報戦略、人事管理、財務・予算管理、危機管理など体育・スポーツ施設の運営に関する総合的な知識を有して、施設の効率的運営及び活性化に努める者を育成する。 九州で一般向けの講習会・資格試験は初開催となる。 2．実績 九州共立大学経済学部所属の教員５名（新井智教授、森部昌広特別客員准教授、大谷美咲講師、堂野崎融講師、長野）と非常勤講師（上村英樹氏）の協力により、１８名の参加者に対して講習会を実施した。 ２４日の資格認定試験は公益財団法人日本体育施設協会より松川氏が試験監督として来校した。 受講生は福岡・長崎・熊本・宮崎・香川からの参加であった。 3．効果 受講生１５名が試験を受け、１５名全てが合格を果たした。 今後、北九州を始めとして各地で体育施設運営士の資格を取得した人材が活躍することが期待できる。
今後の改善内容 及び展開		・開催期日についての検討 ・受講者数を増やす工夫 ・事業形態の再検討（事務局をどうするか等） ・その他

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		２８年度
主催・事業名		主　催：八幡西区（紹介） 事業名：脳活性化教室修了者への介護予防支援
九州共立大学	事業責任者	樋口　行人
	所　　属	スポーツ学部
	実施担当者	樋口　行人
	所　　属	スポーツ学部
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3313 《 E-mail 》higuchi@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》八幡西区役所保健福祉課 《職・氏名》地域包括支援センター担当係長　原田めぐみ 《電話番号》093-642-1441（480） 《 E-mail 》megumi_harada01@city.kitakyushu.lg.jp
事業実施日・回数		７月 14 日・９月８日・11 月 10 日・１月 12 日・３月９日（予）《計５回（予）》
実施場所		大原市民センター
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：講師１名 ボランティア学生：経済学部　０名、スポーツ学部　１名　計　１名 事業対象者：区民（脳活性化教室修了者） 参加者人数：12 名
経　　費		交通費：研究費、保険料負担：学生個人、謝金：なし
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 脳活性化教室（これ自体は行政の事業と思われる）修了者が自発的に集まっている勉強会「希望の会」（12 名で活動）にて、運動を中心とした介護予防支援を実施する。運動のみならず、食事等も含めて広く介護予防につながる内容とする。 2．実績 １回目７月 14 日（木）　骨格の状態のモニタリングとコンディショニング ２回目９月８日（木）　座位体操 ３回目 11 月 10 日（木）　食事選択演習 ４回目１月 12 日（木）　食事調査・ブレスコンディショニング 手腕作業検査（ペグボード）は毎回実施。 3．効果 出席状況はまちまちであるが、来ることによって住民同士つながりもできているのではないかと思われる。手腕作業検査の結果がよくなっているということはないが、継続して行うことで手を動かすことの意識づけになっているのではないかと思われる。
今後の改善内容 及び展開		次回、食事調査結果を返却するが、制限するのではなく、楽しく食べられるように指導したい。暖かくなれば、フットエクササイズを入れていきたい。

「脳活性化教室修了者への介護予防支援」





九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		平成 28 年度
主催・事業名		主　催：北九州商工会議所若松サービスセンター 事業名：若松まちゼミ
九州共立大学	事業責任者	新井　智
	所　　属	経済学部
	実施担当者	新井　智
	所　　属	経済学部
	連　絡　先	《電話番号》　093-693-3217 《 E-mail 》　arai@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》北九州商工会議所若松サービスセンター 《職・氏名》センター長・坂元　龍児 《電話番号》093-761-2021 《 E-mail 》ryuji@kitakyushucci.or.jp
事業実施日・回数		10 月 20 日～11 月 20 日　　《計 40 回》
実施場所		若松商店街
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学： ボランティア学生：経済学部　20 名、スポーツ学部　0　名　計　20 名 参加者人数：20 名
経　　費		交通費 50,400 円
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 事業目的は、若松まちゼミは各店・各企業と連携し経営強化を図り、若松中心街地の発展と新規顧客獲得、ひいては地域活性化に寄与することを目的とする。 事業内容は、各商店・企業が講師となり、予約制で各店の専門知識を受講者に無料で講義・実技体験を提供する少人数（2～10 名位）のゼミナール。本講義を通じて地域活性化への理解を深めるとともに、チームとして自ら企画したゼミを開催しながら、効果的な活動方法を考え提案する。「若松まちゼミ」の講座にも参加することにより、経済・経営活動である企画、商品開発、流通、販売などの実践的な活動を学び、経済・経営学の理論と実践に関する知識やスキルを高める。 2. 実績 九州共立大学経済学部に在籍する学生 20 名が若松まちゼミに参加した。また、学生が講師となり、「家計簿の付け方」と「中国語会話入門」の２つの講座を開催した。 3. 効果 まちゼミに学生が参加する目的は、学生が地域の人に触れ合い、地元産業への意識を高めることである。参加した学生の感想は、職場の環境、経営者の人柄、働いている方々の雰囲気を知ることができ、有意義であったとのコメントであった。
今後の改善内容 及び展開		今回、まちゼミに参加するだけでなく、学生から経済・経営に関する知識を伝えることも有効であると認識できた。さらに地域産業を理解し、相互理解を促すために、今後とも本事業に参加していきたい。

「若松まちゼミ」講座受講生リスト

講座番号	テーマ	学生氏名	受講日・時間
1	まちゼミブースを設置		
2	「浮くっちゃボトル」を作ろう！	廣瀬、弘中	11/16(水) 14:00-15:30
3	簡単中国語講座		
4	家計簿の付け方・見かた	辻、内倉	11/14(月) 11:00-12:00
		山下、福田	11/ 9(水) 14:00-15:00
5	1から作るチョコレート	辻、内倉	11/12(土) 13:30-14:30
6	初心者のための畳のふちで作るポーチ		
7	足指の健康＆介護保険		
8	お寺で心静かに写経・写仏体験		
9	初心者のための鰹だしの取り方		
10	健康寿命を延ばそう！		
11	誰でもできる健康簡単ヨガ&フラ	上里、稲付、竹森、原田	11/13(日)
12	秋のコーディネート講座		
13	自分で作ろう！オリジナルしめ飾り		
14	メガネ屋が進める疲れ目解消法	山下、福田	11/17(木) 18:00-19:00
		山崎、大久保	11/17(木) 18:00-19:00
15	聞くに聞けない着物のお悩み相談		
16	筆笥の肥やしになっていませんか？	山添、早井、吉田	10/30(日) 14:00-15:00
17	聞いてみたかった年金の話		
18	叩けるようになる！ドラム＆カホーン教室	青柳、浦田	11/12(土) 18:30-20:30
19	初めてのタイヤ交換＆点検		
20	今さら聞けない!?神社でのアレコレ	山添、早井、吉田	10/25(火) 15:00-16:00
21	ドタバタ葬儀ホントのトコロ	廣瀬、弘中	11/16(水) 11:00-12:00
22	信じちゃだめよ！葬儀本のウソ・ホント		
23	残りの野菜で美味しい・優しい「野菜ポタージュ」の作り方講座	上里、稲付、竹森、原田	11/ 6(日)
		今村、佐々木、槌本	11/13(日) 11:00-12:00
24	体にやさしい「野菜スムージー」の作り方	今村、佐々木、槌本	11/ 3(木) 11:00-12:00
		山崎、大久保	10/27(木) 18:00-19:00
25	包丁の研ぎ方から当店の料理まで	青柳、浦田	11/10(木) 10:30-12:00
26	生まれ変わる！フルーツデトックス決起講座		
27	日本酒の飲み比べ～自分に合ったお酒を探そう～		

学生による「若松まちゼミ」講座の開催

講座番号	テーマ	講師を務めた学生	開催日
3	簡単中国語講座	朴香梅、田鳳石、哀閃閃	10/21、11/4
4	家計簿の付け方・見かた	原田真緒、福田勝樹	11/9、11/14

学生による「若松まちゼミ」講座の様子



平成 28 年 12 月 16 日（金）毎日新聞



ダイガク走る
学生、教員 地域と共に

ラジオ出演 まちゼミ参加

九共大「ワークショップ」

「クリスマスイブ、どうやって過ごす？」

今月8日夜、九州共立大（八幡西区）2年の稲本紘子さん(20)と佐々木法恵さん(20)は、若松区のコミュニティーFM「エアーステーションヒビキ」の番組でこう切り出した。市民グループがスポンサーで製作を担当するトーク番組の1コーナーで、司会の2人はゲストの同級生3人にデートや旅行など女子大生らしい話題を振り、若さいっぱいのおしゃべりを演出した。

学生2人が司会を務めたコーナーは、毎月第2木曜日夜に放送する1時間番組内の15分間。九共大と北九州商工会議所の連携協定に基づき、商議所と関係の深い市民団体「若松がんばろう会」が交代で司会を務めており、出演は経済学部2年稲本さんら2年生4人が6月から起用している。

出演は経済学部の選択科目「ワークショップ」の一環だ。番組終了後、稲本さんは「司会を通じて、他人に自分の思いを伝えられるようになった」と語った。佐々木さんは「番組作りをしながら、社会人の方からさまざまな話を聞けるのが魅力」と口にした。

番組のパーソナリティー、藤村いづみさん(43)は「将来仕事だけでなく、それぞれが住む地域の町おこしに参加するきっかけになれば」と卒業後の活躍に期待を込めた。

福田勝樹さん

原田真緒さん

司会の2人が受講する「ワークショップ」は体験型の科目で、経済学部でマーケティングを担当する新井智教授を中心に昨年度開講した。今年度はラジオ番組出演の他、若松の商店街が毎年秋に開く市民向け講座「まちゼミ」への参加を通じ、住民の自主的な活動や商店街の実情を知ることを目標とした。

「まちゼミ」に参加した学生は生徒として受講したり、先生役を買って出たりした。家計簿の付け方を講義した原田真緒さん(20)は「主婦の悩みを直接聞くことができ、貴重な経験だった」と振り返った。福田勝樹さん(20)も「専門用語を使わず、分かりやすく説明する大切さを感じた」と話す。

大学側は経済学部の他、来年度はスポーツ学部でも健康作りや介護予防に関するワークショップを開講する予定だ。地域連携推進室の田中邦博室長は「学生の人格形成と地域貢献を両立する学習として進めていく」と話った。【奥田伴一】

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		平成 28 年度
主催・事業名		主　催：北九州商工会議所若松サービスセンター 事業名：若松がんばろう会
九州共立大学	事業責任者	新井　智
	所　　属	経済学部
	実施担当者	新井　智
	所　　属	経済学部
	連　絡　先	《電話番号》　093-693-3217 《 E-mail 》　arai@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》北九州商工会議所若松サービスセンター 《職・氏名》センター長・坂元　龍児 《電話番号》093-761-2021 《 E-mail 》ryuji@kitakyushucci.or.jp
事業実施日・回数		8月　1日～12月31日　　《計　5　回》
実施場所		若松地区
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学： ボランティア学生：経済学部　20 名、スポーツ学部　0　名　計　20 名 参加者人数：20 名（1 回あたり 4 名参加）
経　　費		北九州学研都市　FM ひびきスタジオ
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 目的は「若松がんばろう会」の活動である商業者や企業、団体の若手が主体となり、様々な活性化の取り組みを行い、若松中心街地の発展に寄与することに貢献する。 内容は、「若松わいわいラジオ」「若松みなと祭り・五平太ばやし」を実行する。その活動に学生としてボランティアとして参加し、地元との交流が深め、地元企業への就職アップにつなげる。 2．実績 本年度の実績は「若松わいわいラジオ」月 1 回（第 2 木曜）の放送に参加し、15 分間の枠の中で、自分たちの身近な話題である大学のこと、大学近辺のこと、大学生活のことをまとめ放送した。8 月から放送を行い、これまで 5 回放送に参加している。 3．効果 学生への効果として、番組制作に関する知識、情報収集を行いまとめる能力、番組関係者との調整を通じたコミュニケーション能力の向上があげられる。
今後の改善内容 及び展開		学生の「若松わいわいラジオ」への参加意欲があり、今後とも「若松わいわいラジオ」への参加を続ける。 「若松みなと祭り・五平太ばやし」については、練習日から本番までの学生の時間的な問題があること、「若松みなと祭り・出店」については製品の確保や予算などの問題から参加を見送りたい。

「若松わいわいラジオ」











九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		平成 28 年度
主催・事業名		主　催：北九州商工会議所若松サービスセンター 事業名：若松みなと祭り
九州共立大学	事業責任者	新井　智
	所　　属	経済学部
	実施担当者	新井　智
	所　　属	経済学部
	連　絡　先	《電話番号》 093-693-3217 《 E-mail 》 arai@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》北九州商工会議所若松サービスセンター 《職・氏名》センター長・坂元　龍児 《電話番号》093-761-2021 《 E-mail 》ryuji@kitakyushucci.or.jp
事業実施日・回数		7月30日　　《計　1　回》
実施場所		若松地区
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学： ボランティア学生：経済学部　18名、スポーツ学部　0名　計　18名 参加者人数：18 名
経　　費		なし
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 協賛会は、若松区繁栄のため、区民相互の親睦を深め地域主体による若松の魅力向上を図る活動を行うことを目的とする。 事業の内容は、「若松みなと祭り」では「茎の海花火の祭典」「五平太ばやし」「ステージイベント」「うみのイベント」などの行事を開催する。 2. 実績 ボランティアとして、本事業の平成 28 年若松みなと祭りに学生 18 名（経済学部生、2 年生・3 年生）が参加した。 ①「幼児五平太ばやし発表会」メイン会場 ・ステージの準備、周辺駐車場の管理、テント付近の見回り ②「うみのイベント」南海岸通り ・海上保安庁巡視船一般公開の乗船案内 ③「フラフェスティバル」若松市民会館 ・参加団体の控室の準備、手伝い ・ステージサイドでの案内 3. 効果 若松みなと祭りで任された内容の運営が問題なく実行することができた。
今後の改善内容 及び展開		行事が学生の前期試験と重なり学生への負担を招き、時期的な調整が必要である。

『平成 28 年若松みなと祭り』ボランティア参加報告

2016年８月４日
経済学部　新井　智

地域連携活動として、平成 28 年若松みなと祭りに学生 18 名（経済学部生、２年生・３年生）がボランティア参加しましたのでご報告いたします。

1. 事業プラン名

若松みなと祭り

2. 取り組み形態

個人のボランティア

3. 内容

日時　平成 28 年７月 30 日（土）　8:30　～　18:30
場所　JR 若松駅周辺
内容　①「幼児五平太ばやし発表会」メイン会場
・ステージの準備、周辺駐車場の管理、テント付近の見回り
②「うみのイベント」南海岸通り
・海上保安庁巡視船一般公開の乗船案内
③「フラフェスティバル」若松市民会館
・参加団体の控室の準備、手伝い
・ステージサイドでの案内

《メイン会場裏の荷物搬送》



《フラフェスの打ち合わせ風景》





《北九州商工会議所の方とスナップ》

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		平成 28 年度
主催・事業名		主　催：岡垣町役場　（地域づくり課） 事業名：核兵器廃絶平和の町宣言事業
九州共立大学	事業責任者	白石　忍
	所　　属	経済学部
	実施担当者	白石忍、日高和美
	所　　属	経済学部
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3417 《 E-mail 》siraisi@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》岡垣町地域づくり課 《職・氏名》課長補佐　花田　敏治 《電話番号》093（282）1211 《 E-mail 》chiiki@town.okagaki.1g.jp
事業実施日・回数		４月 16 日・４月 23 日・５月 21 日・５月 29 日・６月４日・６月 12 日・６月 19 日・６月 26 日・７月９日・７月 16 日・７月 24 日・７月 30 日・８月６日・８月７日　《計 14 回》
実施場所		岡垣サンリーアイ
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：経済学部　経済・経営学科　４年生 ボランティア学生：経済学部　　６名　計　６名 事業対象者：12 名 参加者人数：43 名
経　　費		なし（学生には交通費が岡垣町役場から支給された）
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 「『恒久の平和と安全は、人類共通の念願であり、この至高の目標の達成なくして岡垣町が目指している（機能性豊かな田園都市）の実現もあり得ない』『よって岡垣町は、平和への誓いを新たに決意し、ここに（核兵器廃絶平和の町）を宣言する』」（岡垣町、1986 年７月 21 日）に基づく。 その内容は、８月７日（日）に岡垣サンリーアイ・ハミングホールで行われる「岡垣町核兵器廃絶平和の町宣言 30 周年事業」の一つ「岡垣町の 12 人の小学生による発表」（演劇や朗読）支援である。 2. 実績 オリエンテーション２回、長崎市への現地取材同行、練習９回、前日リハ、当日リハ、本番、反省会に参加。 実際の指導は、劇団の方や放送局の方々がするので、学生たちは、小学生のケアーと簡単な指導をコミュニケーションをとりながらの支援という役回りをこなした。 3. 効果 関係者の皆様から、大変高い評価をいただいた。 小学生にとっては、周りが高齢な方の多い中で、大学生の存在はとても心和むものだったようだ。
今後の改善内容 及び展開		回数が非常に多いので、ボランティアとして関わるには時間的に負担が大きかった。加えて、４年生で教職を目指している学生たちのため、多くが、６月の教育実習を抱えていた。関わる学年と、カリキュラム上の位置づけを検討したいと思っている。

岡垣町役場「核兵器廃絶平和の町宣言事業」





九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		平成 28 年度
主催・事業名		主　催：九州共立大学・岡垣町 事業名：「まちの魅力発見（「広報おかがき」特集記事の企画）」
九州共立大学	事業責任者	山田　明
	所　　属	スポーツ学部
	実施担当者	山田　明
	所　　属	スポーツ学部
	連　絡　先	《電話番号》０９３－６９３－３４０３ 《 E-mail 》y-akira@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》岡垣町役場 《職・氏名》広報情報課職員３名 《電話番号》０９３－２８２－１２１１ 《 E-mail 》koho2@town.okagaki.lg.jp
事業実施日・回数		６月～12 月《月１回》
実施場所		岡垣町役場
事業参加者 参 加 人 数		九州共立大学：ボランティア学生５名（経済学部）
経　　費		なし
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 岡垣町の住民に町の素晴らしさを再認識してもらい、町に愛着と誇りを持って住民自らが町の良さを PR したくなるような魅力を発信する企画を行う。 2．実績 （１）岡垣町のいいところを確認 ＊岡垣町内をフィールドワークした後、まちの魅力について意見交換する。 （２）フィールドワークした場所、文献・パンフ等で気になった場所を［KIT-PT］方式で整理する。 （３）さらに取材をし、関係者にもインタビューする。 （４）住民自らが町の良さを PR したくなるような仕掛けについてアイデアを出し合う。町の広報誌のレイアウト、編集等についてまとめていく。また、インターネットを利用した情報の発信方法も検討する。 （５）特集記事としての方向性を整理し、企画案としてまとめる。 3．効果 「広報おかがき」に特集記事を掲載（平成２８年１２月２５日号）
今後の改善内容 及び展開		自治体から学生に期待されていたことは、若者の視点で町外から見た岡垣町の良さや、同世代の関心を惹く情報発信の方法について意見やアイデアを出してもらうということであった。参加する学生には事前準備としてこの種のテーマを想定して学んでおく、あるいは、考えさせておくという指導が必要である。

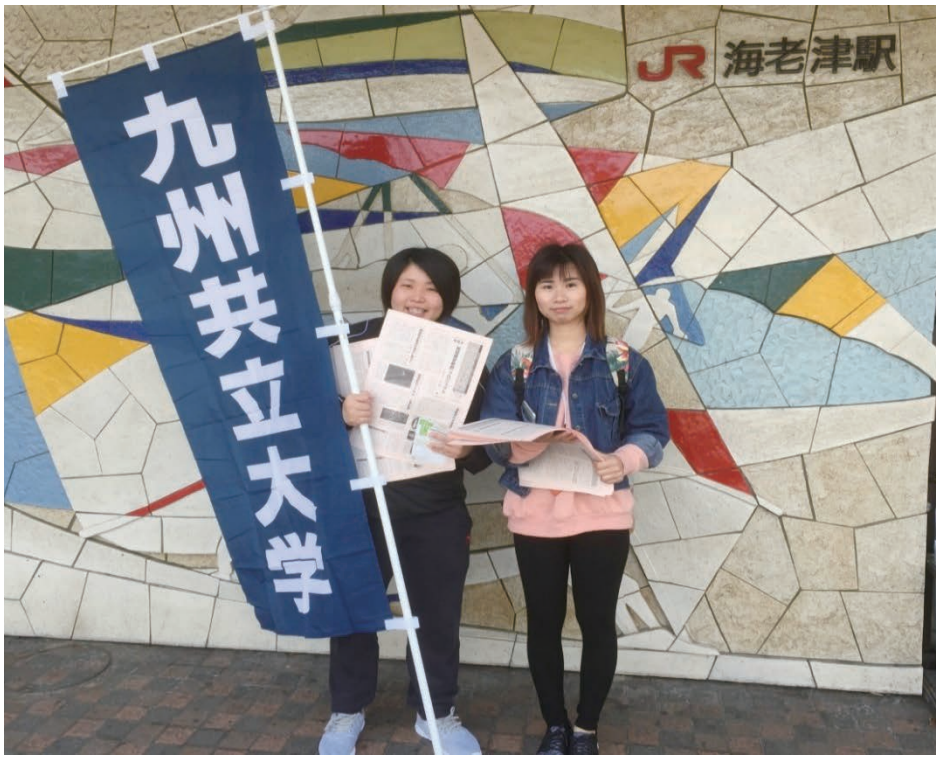
九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年度		28 年度
主催・事業名		主　催：岡垣町 事業名：広報誌協力
九州共立大学	事業責任者	遠藤哲広
	所　　属	経済学部
	実施担当者	遠藤哲広
	所　　属	経済学部
	連 絡 先	《電話番号》450 《 E-mail 》endoh@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》岡垣町役場 《職・氏名》広報情報課職員３名 《電話番号》093-282-1211 《 E-mail 》koho2@town.okagaki.lg.jp
事業実施日・回数		８月10日・９月26日・10月24日・12月７日・12月９日　《計５　回》
実施場所		岡垣町
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学： ボランティア学生：経済学部　５　名、スポーツ学部　０　名　計　５　名
経　　費		交通費、弁当は岡垣町負担。
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 岡垣町広報誌への参加 岡垣町の魅力発見 2．実績 12月25日発行、岡垣町広報誌への参加協力 3．効果 岡垣町の魅力を発見。インタビューし、魅力を見つけ出す。２名へインタビュー。 JR海老津駅員へのインタビュー。農家へのインタビュー。 人や自然の素晴らしさをアピールする記事を書いた。
今後の改善内容 及び展開		広報誌は、12月25日に発行される。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		平成 28 年度
主催・事業名		主　催：九州共立大学・岡垣町 事業名：「地域活性化新聞（岡垣歴史新聞）」プロジェクト
九州共立大学	事業責任者	山田　明
	所　　属	スポーツ学部
	実施担当者	山田　明
	所　　属	スポーツ学部
	連　絡　先	《電話番号》０９３－６９３－３４０３ 《 E-mail 》y-akira@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》岡垣町役場 《職・氏名》広報情報課３名、生涯学習課２名 《電話番号》０９３－２８２－１２１１ 《 E-mail 》koho2@town.okagaki.lg.jp
事業実施日・回数		６月～１２月《月１～２回》
実施場所		岡垣町役場・地域交流センター
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：ボランティア学生３名（スポーツ学部２名・経済学部１名）
経　　費		なし
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 学生が、岡垣町（福岡県遠賀郡）の地域活性化を目的とした新聞（「岡垣歴史新聞」）を作成し町内に広く配布することにより、九州共立大学と岡垣町の地域連携を進展させ、学生の学びの機会、岡垣町の町民及び自治体の町づくりへの寄与、大学の知の拠点化等に効果がある地域貢献活動とする。 2．実績 （１）事前準備 ①大学での授業（「社会教育と生涯学習」「ボランティア論」等）と本活動の関連性の把握 ②文献及びインターネット等による岡垣町の情報収集 ③自治体及び町民有志との打ち合わせ ④活動計画の企画 （２）岡垣町でのフィールドワーク［夏期休業中を利用］＊自治体等の協働 （３）記事の作成 （４）新聞の編集・レイアウト・校正［自治体等の協働］ （５）新聞の発刊・JR 海老津駅での配布 （６）毎日新聞社の取材への対応 （７）学生の本活動に関する振り返り［総括、アンケート調査、インタビュー］ 3．効果 （１）学生：市民性［シティズンシップ］の涵養 （２）岡垣町：地域活性化・町づくりの進展 （３）大学：知の拠点としての役割
今後の改善内容 及び展開		今回は、岡垣町の魅力を再発見することをテーマに、同町の誇る自然と歴史の中で歴史に特化した新聞づくりを実施した。これを基盤に、自然やその他の魅力をさらに発見し、「岡垣学」（仮称）の構築を目指したい。

「岡垣歴史新聞」



「広報おかがき」



九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28 年度
主催・事業名		主　催：（公財）岡垣サンリーアイ文化スポーツ振興財団 事業名：サンリーアイこどもキャンプ３
九州共立大学	事業責任者	花田　道子
	所　　属	スポーツ学部
	実施担当者	花田　道子
	所　　属	スポーツ学部
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3434 《 E-mail 》hanada@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》（公財）岡垣サンリーアイ文化スポーツ振興財団 《職・氏名》館長（専務理事）渡辺　一郎 《電話番号》093-282-1515 《 E-mail 》
事業実施日・回数		平成 28 年８月 24 日（水）～8 月 25 日（木）　　《計　１回》
実施場所		岡垣サンリーアイ
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学教員：１名 九州共立大学学生４名 九州女子大学学生６名（アダプテッド・スポーツ研究部）
経　　費		講師謝礼金・交通費支給
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 子どもたちに、地域の文化・スポーツ拠点施設“岡垣サンリーアイ”をより一層親しんでもらい、文化・スポーツ活動のきっかけを創る“未来への懸け橋”事業。 2．実績 キャンプリーダーを花田が務め、小学校３年生以上の 30 名を５人の６グループに分け、各グループの班付スタッフとして学生が参画した。 3．効果 今年で３日目のサンリーアイこどもキャンプ３は、募集人数 30 名のところ３倍の 90 名の応募がある人気のキャンプとなっています。１回目から学生と共に参画させて頂いており、スタッフの方々との息もピッタリで良い連携事業となっていると感じます。岡垣サンリーアイの体育館にダンボールハウスを作って、そこに寝ると言うプログラムは子どもたちの創造性を高め、また視点を変えると防災教育の一環として今後に繋がる体験となることと思います。１泊２日ですが、子どもたちの大きな成長の場に携われることで学生たちも貴重な体験をさせて頂いています。
今後の改善内容 及び展開		一番大事なことは、子どもたちを怪我なく元気に保護者の元にお返しすることだと考えます。学生たちも責任感を持って関わり、学生たちのマンパワーが社会の力となるようにこれからも頑張りたい。

≪平成２８年度　岡垣サンリーアイこどもキャンプ３≫

九州共立大学スポーツ学部 ４年 杉野　真也

今回、岡垣サンリーアイのこどもキャンプ３に参加させてもらい１泊２日という短い間でしたが、たくさんの事を体験して学ぶことができました。

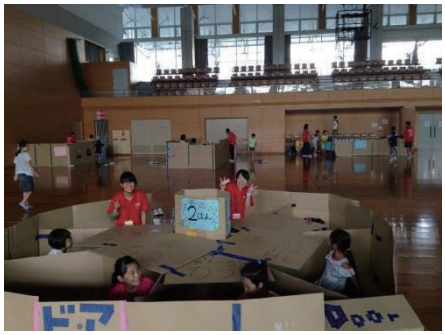
子ども達との関わりの中では、一人一人に役割を与え、集団生活の中での子ども達の成長を近くで感じる事ができましたし、少しでも子ども達の成長をサポートできたことを嬉しく思っています。
そしてサンリーアイのスタッフの方や指導者の方々が準備や後片付け、プログラム、私達の食事の事など陰ながら支えてくださって何不自由なくキャンプを終えることができました。本当に感謝しています。ありがとうございました。

私自身、とても楽しくボランティアに参加できたので今回のボランティアで経験し学んだ事を振り返って、また次に活かせるようにしたいと思います。



ミーティング





ダンボールハウス



カレーづくり





みんなとっても仲良くなりました(^^♪



レクリエーション





あっと言う間の１泊２日でした。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		平成 28 年度
主催・事業名		主　催：九州共立大学・岡垣町 事業名：「ボランティア交流会」
九州共立大学	事業責任者	山田　明
	所　　属	スポーツ学部
	実施担当者	山田　明
	所　　属	スポーツ学部
	連　絡　先	《電話番号》０９３－６９３－３４０３ 《 E-mail 》y-akira@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》岡垣町役場 《職・氏名》地域づくり課／課長補佐（花田敏治）・地域交流センター長（鳥谷幹二） 《電話番号》０９３－２８２－１２１１（代表）
事業実施日・回数		2017 年3月 19 日（日）
実施場所		岡垣町地域交流センター（福岡県遠賀郡岡垣町野間１-１-１）
参 加 人 数		九州共立大学：山田明（スポーツ学部） 岡垣町役場：地域づくり課５名（課長・課長補佐・主任・地域交流センター長及び職員）
経　　費		特別研究費
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 岡垣町で活動するボランティア団体が、お互いの課題を知り、意見交換をしながら課題解決の方向性を探るという交流会での基調講演と指導助言を行う。 2．実績 （１）第一部 ボランティア交流会での基調講演 テーマ　「今後のボランティア活動の行方」 （２）第二部 各ボランティア団体の活動報告と意見交換（交流会） （３）第三部 大学教員による質疑応答での指導助言 3．効果 岡垣町で活動するボランティア団体が、それぞれに抱える課題を他団体と共有し、ともに解決策を話し合うことで未来志向的な取り組みに向けた方向性を見出す機会となった。
今後の改善内容 及び展開		事前にアンケート等を活用して、各ボランティア団体の個別の課題を知らせてもらい、住民の力で解決可能な課題、自治体の支援が必要な課題、他の組織や団体との協働で解決可能な課題などを把握できれば、第一部の講演、第三部の質疑応答での指導助言がより効果的になると考えられる。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28年度
主催・事業名		主　催：経済学部 事業名：ワークショップＡ（セパレート方式）
九州共立大学	事業責任者	梅田　勝利
	所　　属	経済学部
	実施担当者	梅田　勝利
	所　　属	経済学部
	連　絡　先	《電話番号》０９３－６９３－３２１１ 《 E-mail 》umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》JR 九州 《職・氏名》折尾駅長・山口和浩 《電話番号》０９３－６９１-００２４ 《 E-mail 》ka.yamaguchi@jrkyusyu.co.jp
事業実施日・回数		１０月９日（日）、２２日（土）《計２回》
実施場所		JR 遠賀川駅（１０月９日）、JR 水巻町（１０月２２日）
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：経済学部１年 事業対象者：３名 参加者人数：３名
経　　費		なし
事業内容 実績及び効果		1.　事業目的・内容等 JR 九州が主催するイベント「JR 九州ウォーキング」に参加した。学生が参加したのは、「芦屋基地航空祭にブルーインパルスを見に行こう！」（10月９日）、「コスモスを鑑賞し、水巻町を散策しよう！」（10月２２日）の２つのコースである。実践科目であるワークショップＡは、１年次という早い時期からイベント企画や実際の運営に携わるなど社会体験を増やすために用意された参加型講義（アクティブ・ラーニング）のひとつである。地域貢献・地域連携をテーマに、用意されたプロジェクトから複数選択し、課題解決の意識を学ぶ機会を提供している。本科目は２年目である。 2.　実績 前年度同様に、JR 折尾駅山口和浩駅長、小野田曜副駅長を本学経済学部にお招きし、イベントの打ち合わせだけではなく、企画・運営の方法についてお話を伺った。イベント当日は運営スタッフとして、JR 九州の当日スタッフと連携し、イベント参加者との交流を積極的に図った。その結果として現状を把握する能力・コミュニケーション能力・課題発見能力の育成を図ることができ、知識・技術の習得・活用方法について学ぶことができたと考えている。 3.　効果 本学経済学部のカリキュラムポリシーの狙いである、課題追求能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、実践力、調整能力を育成する、きっかけになったとして、非常に効果があったものと考えている。
今後の改善内容 及び展開		現状を把握する能力、課題発見能力、コミュニケーション能力の育成は概ね図れたと考えている。その成果については、本年度の学生研究報告会において、本イベントの現状と課題および学生の視点からの提案の２点について、副駅長にインタビューして得た情報なども交えながら、報告した。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28年度
主催・事業名		主　催：経済学部 事業名：ワークショップＡ（セパレート方式）
九州共立大学	事業責任者	梅田　勝利
	所　　属	経済学部
	実施担当者	梅田　勝利
	所　　属	経済学部
	連　絡　先	《電話番号》０９３－６９３－３２１１ 《 E-mail 》umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》就労継続支援Ｂ型事業所　ワークなごみ 《職・氏名》理事長・吉田直子 《電話番号》０９３－３８３－５１７２ 《 E-mail 》work_nagomi@view.ocn.ne.jp
事業実施日・回数		１１月４日（金）・１１日（金）・１８日（金）・２５日（金）《計４回》
実施場所		就労継続支援Ｂ型事業所　ワークなごみ
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：経済学部１年 事業対象者：３名 参加者人数：３名
経　　費		なし
事業内容 実績及び効果		1.　事業目的・内容等 　就労継続支援Ｂ型事務所　ワークなごみにて、障がい者就労支援事業に参加した。学生は主に利用者の仕事を体験した。仕事は太陽光発電や物置など、屋外に設置する建築物のボルトセットの組み立てなど、３つである。ワークショップＡは、１年次という早い時期からイベント企画や実際の運営に携わるなど、社会体験を増やすために用意した参加型講義（アクティブ・ラーニング）のひとつである。地域貢献・連携をテーマに、用意されたプロジェクトから複数選択し、課題解決の意識を学ぶ機会を提供している。今回、本事業では、施設利用者の自立支援事業について、経済学および経営学の観点から、その意義について考察することをねらいとした。 2.　実績 　前年度同様に、ワークなごみ生活指導員の吉田元貴氏を本学経済学部にお招きし、事業内容の打ち合わせだけではなく、障がい者福祉サービスについても話を伺った。当日は運営スタッフとして、ワークなごみのスタッフと連携し、施設利用者の現状と課題について考察した。その結果として、現状を把握する能力・コミュニケーション能力・課題発見能力の育成を図ることができ、知識・技術の習得・活用について学ぶことができたと考えている。 3.　効果 　本学経済学部のカリキュラムポリシーの狙いである、課題追求能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、実践力、調整能力を育成することに対して、非常に効果があったものと考える。また、地域貢献に関する意識の向上も図れたと考えている。
今後の改善内容 及び展開		現状を把握する能力、課題発見能力、コミュニケーション能力の育成は概ね図れたと考えている。その成果については、本年度の学生研究報告会において、本イベントの現状と課題及び学生の視点からの提案の２点について、報告した。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28 年度
主催・事業名		主　催：北九州市（北九州ゆめみらいワーク運営事務局　　事業受託会社：マイナビ） 共催：北九州商工会議所、北九州雇用対策協会、北九州・下関まなびとぴあ 後援：福岡県、福岡県教育委員会、北九州市教育委員会 事業名：『北九州ゆめみらいワーク 2016～わたしたちの“しごと”と“まなび”をかんがえよう～』
九州共立大学	事業責任者	大和裕美子
	所　　属	経済学部
	実施担当者	大和裕美子・末永勝昭
	所　　属	経済学部
	連 絡 先	《電話番号》研究室：093-693-3185(419)　携帯：050-3592-0606 《 E-mail 》yamato@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》北九州市（北九州ゆめみらいワーク運営事務局事業受託会社：マイナビ） 《電話番号》093 - 551 - 5855 《 E-mail 》ms-kitakyushu-yumemirai@mynavi.jp
事業実施日・回数		平成２８年８月２６日・　８月２７日　《計２回》
実施場所		西日本総合展示場　新館（北九州市小倉北区浅野３－８－１）
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：経済学部　教員：２名　　学生：３名（展示サポーターとして）　入試広報課：５名 来場対象者：中学生、高校生、大学生、保護者、教員など 来場者数：約 6,500 人 出展対象：大学、短期大学、専門学校、高等専門学校、企業等
経　　費		本学関係：九州共立大学入試広報課　展示のための経費（パネルつり下げ用チェーン、スクリーンのレンタル、プロジェクターのレンタル）
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 出展テーマ：職業人養成教育 「職業人養成 教育大学」として、学生一人ひとりを自立した職業人へ成長させ、企業・自治体・公的機関・団体等から必要とされる人材を育成する本学の教育カリキュラムや就業力育成プログラム、就職支援システムなどについて紹介する。 2．実績 （1）出展事業：企画・事前打ち合わせ会議　計３回 ＊会議参加者：九州共立大学教員１名、入試広報課職員１名（１回目） 九州共立大学教員１名、入試広報課職員４名（２回目） 九州共立大学教員２名（３回目） 3．効果 高校生を中心とした来場対象者にたいして、パネル展示やパワーポイントによるプレゼンテーションおよび資料配布等によって本学経済学部の職業人養成教育にかんする取り組みを紹介できた。
今後の改善内容 及び展開		九州共立大学で学ぶことの魅力をより伝えるために、展示パネルやパワーポイントに加え、今後は中学生や高校生が楽しく参加できるような企画（クイズ、ゲームなど）も検討していきたい。

「北九州ゆめみらいワーク 2016～わたしたちの“しごと”と“まなび”をかんがえよう～」



九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		平成２８年度
主催・事業名		主　催：ギラヴァンツ北九州 事業名：シニア健康教室
九州共立大学	事業責任者	森部　昌広
	所　　属	経済学部
	実施担当者	森部　昌広
	所　　属	スポーツビジネスコース／領域
	連　絡　先	《電話番号》070-5418-6879 《 E-mail 》moribejukuchou@gmail.com
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》ギラヴァンツ北九州 《職・氏名》ホームタウン推進事業本部　部長　下田　功 《電話番号》093-863-6777 《 E-mail 》shimoda@giravanz.jp
事業実施日・回数		５月 16 日～12 月 12 日現在　　《計　１２回》
実施場所		各地区市民センター（※5 月 15 日のみ飯塚の九州酸素本社施設使用）
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学： ボランティア学生：経済学部　２名、スポーツ学部　１名　計　３名 事業対象者：北九州市民（各地区市民センターの呼びかけに反応した自主的参加者） 参加者人数：延べ 553 人（12 月 12 日現在）
経　　費		ギラヴァンツ北九州負担による
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 北九州市民で、かつ後期高齢者及びその予備軍を中心とするシニア層を対象に「転倒予防」と「認知症対策」を目的とした健康教室を展開する。 転倒予防講座では「目からウロコの転倒予防講座」と題して、高齢者に毎日やっていただきたい「足指」「股関節周辺」「膝関節周辺」の筋群を強化するトレーニング方法について、理論と実技の２本立てで分かり易く解説・指導を行う。 認知症対策講座は、体を使ったシナプソロジーに基づいた個人及びグループワークによって構成され、シンプルでありながら非常に頭と体を困惑させるゲームを行う。 2．実績 平均すると１回当たり 30～40 の参加者があり、その中の半数以上は「膝が痛い」「腰が痛い」、体の節々が「こわばる」等の自覚症状を訴えてある。それが講座に参加し、実技を体験することで、僅か数十分の運動で「膝（や腰）の痛みが取れた」「歩くのが楽になった」と感想を述べてお帰りになられている。５月 15 日九州酸素、27 日高見市民センター、６月 22 日竹末市民センター、24 日萩が丘市民センター、９月７日則松市民センター、９日北小倉市民センター、14 日大里市民センター、２３日光貞市民センター、３０日大蔵市民センター、１０月１４日平野市民センター、12 月９日横代市民センター、12 月 12 日若市民センターにて開催。 3．効果 上記 2.以外では、全員が笑顔になり、「来て良かった」「また来たい」等のポジティブな声を残されている。アンケート結果他は集計中。
今後の改善内容 及び展開		毎回「資料か本はありませんか？」とお問い合わせをいただいているので、この資料の制作を学生に担当させ、学生の社会人基礎力のスキルアップにも活用したい。上記コンテンツ自体はある程度完成しているので、ビデオ撮影をして教材化したり、同じものを YouTube にアップしてギラヴァンツの PR にも協力したい。



「5月 15 日九州酸素セミナー風景」



「森部の話に熱心に耳を傾けるシニアの参加者達」



「森部流トレーニングを体験中のシニアの皆さま」

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28年度
主催・事業名		主　催：九州共立大学ちょボラ部・学園＆地域交流ネットワーク 事業名：地域交流事業
九州共立大学	事業責任者	工藤浩（ちょボラ部部長）、梅田勝利（同部副部長）、堂野崎融（同部副部長）
	所　　属	共通教育センター、経済学部
	実施担当者	北郷直人、樋口竜一郎、中野航希
	所　　属	経済学部3年、2年
	連 絡 先	《電話番号》093－693－3060、093－693－3211 《 E-mail 》kudoh@kyukyo-u.ac.jp、umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》学園＆地域交流ネットワーク 《職・氏名》代表　蒔田加代 《電話番号》090－2710－6810 《 E-mail 》kayo-myuzu@nifty.com
事業実施日・回数		毎月第3火曜日　　《計　7　回》
実施場所		レンタルスペースドルフィン
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：経済学部・スポーツ学部の学生 事業対象者：ちょボラ部 参加者人数：ちょボラ部員、顧問3名
経　　費		年会費 2,000 円／人（顧問のみ）
事業内容 実績及び効果		1.　事業目的・内容等 「学生の集まるまち」を目指した折尾のまちづくりについて協議し、各方面に働きかける。今年度は、地域交流事業として、ちょボラ部と学園・地域交流ネットワークが共同して、レンタルスペースドルフィン（福岡銀行折尾支店そば）を、地域交流の拠点として、多世代・地域交流に重点を置いて、地域貢献・連携活動を行った。 2.　実績 毎月第3火曜日にミーティングを行い、毎回現在および今後の①ボランティア活動、②産学官連携活動、③地域貢献・連携活動について議論した。①では、黒崎商店組合連合会主催のイベント「黒崎こども商店街」などについて取り上げた。②では、堀川まちおこし事業「学生主体による「堀川」活性化・PR プロジェクト」を取り上げた。③では、第１５回堀川いっせい清掃などを取り上げた。また、レンタルスペースドルフィンを地域交流の拠点とするための議論が前年度同様行われ、今後の活動のあり方についてまで、活発な議論が展開された。 3.　効果 当初、ちょボラ部員は多世代・地域交流に困惑したようだったが、次第に積極的に発言、質問や提案をするようになり、各自が役割と責任を理解し、会議も順調に進められるようになってきた。ときには、学園・地域交流ネットワークの方々と、質問や意見を交わし、活発な議論を展開したり、食事会を開催したりした。魅力のあるまちづくりを目的とした、地域貢献・連携活動が軌道に乗り始めた。主体性の育成、傾聴力の向上などに有効であったと考えている。
今後の改善内容 及び展開		ちょボラ部員は、今年度から本格的に組織として活動を始めたため、まだ手探りの状態であり、非効率な点が多い。来年度は、効果的かつ効率的な活動を目指す。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28年度
主催・事業名		主　催：JR 九州 事業名：JR 九州ウォーキング
九州共立大学	事業責任者	工藤浩（ちょボラ部部長）、梅田勝利（同部副部長）、堂野崎融（同部副部長）
	所　　属	共通教育センター、経済学部
	実施担当者	北郷直人、樋口竜一郎、畑中耕太
	所　　属	経済学部３年、１年
	連 絡 先	《電話番号》０９３－６９３－３０６０、０９３－６９３－３２１１ 《 E-mail 》kudoh@kyukyo-u.ac.jp、umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》JR 九州 《職・氏名》折尾駅長・山口和浩 《電話番号》０９３－６９１-００２４ 《 E-mail 》ka.yamaguchi@jrkyusyu.co.jp
事業実施日・回数		６月５日（日）《計２回》
実施場所		JR 折尾駅（６月５日）
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：経済学部・スポーツ学部の学生 事業対象者：ちょボラ部 参加者人数：ちょボラ部員
経　　費		なし
事業内容 実績及び効果		1.　事業目的・内容等 　JR 九州が主催するイベント「JR 九州ウォーキング」に参加した。ちょボラ部員が参加したのは「祝開通！今しか歩くことのできない鉄道トンネル」（６月５日）である。今回の事業は、JR 折尾駅から協力要請を受けたものである。本事業は公共性・公益性が高い企業において、ボランティア活動を行うという産学連携活動であり、地域貢献活動である。JR 九州が県内の大学と連携して、JR 九州ウォーキングというかたちを通じて、地域貢献活動を行うのは本学が初めてということもあり、その活動の継続をお互いが期待していることから、今後も当該事業に積極的に関わっていくことが期待できると共に、参加した学生のイベント企画・運営力の育成が図れる。 2.　実績 　前年度のワークショップ A と同様に、JR 折尾駅山口和浩駅長、小野田曜副駅長を本学経済学部にお招きし、イベントの打ち合わせだけではなく、企画・運営の方法についても話を伺った。当日は運営スタッフとして、JR 九州の当日スタッフと連携し、イベント参加者との交流を積極的に図った。その結果として、現状を把握する能力・コミュニケーション能力・課題発見能力の育成を図り、知識・技術の習得・活用について学ぶことができたと考えている。 3.　効果 　本学経済学部のカリキュラムポリシーの狙いである、課題追求能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、実践力、調整能力を育成することに対して、非常に効果があったものと考えている。
今後の改善内容 及び展開		ちょボラ部員は、今年度から本格的に組織として活動を始めたため、まだ手探りの状態であり、非効率な点が多い。来年度は、効果的かつ効率的な活動を目指す。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28年度
主催・事業名		主　催：黒崎こども商店街実行委員会・黒崎商店組合連合会 事業名：黒崎こども商店街２０１６
九州共立大学	事業責任者	工藤浩（ちょボラ部部長）、梅田勝利（同部副部長）、堂野崎融（同部副部長）
	所　　属	共通教育センター、経済学部
	実施担当者	中野航希、原田真緒、畑中耕太
	所　　属	経済学部２年、１年
	連 絡 先	《電話番号》０９３－６９３－３０６０、０９３－６９３－３２１１ 《 E-mail 》kudo@kyukyo-u.ac.jp、umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》黒崎こども商店街実行委員会 《職・氏名》熊手銀天街組合長・田中大士 《電話番号》０９０－４３４３－４６３６ 《 E-mail 》taishi4636@gmail.com
事業実施日・回数		６月１３日、７月４日、１１月１２日　　《計　３　回》
実施場所		コムシティ（事前打ち合わせ）、黒崎商店街
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：経済学部 事業対象者：ちょボラ部、ワークショップＡ受講者 参加者人数：５名
経　　費		なし
事業内容 実績及び効果		1.　事業目的・内容等 黒崎こども商店街は、小学生を対象に商店街の実際の店舗に参加しながら、仕事や買い物を体験する職業体験イベントである。大人の仕事を体験することで、自主性を引き出し、その経験から自分に自信を持てるようになることをひとつのねらいとしている。当日は多くの店が黒崎商店街に並び、飲食店、飲食料品小売業、銀行業など、多種多様な職業を、小学生各自が選び、働き、報酬得て、それを使う喜びと達成感を知るという体験をするため、参加学生はそのボランティアスタッフを務めた。 2.　実績 １１月１２日（土）、「黒崎こども商店街」に、ちょボラ部部員とワークショップ Ａ受講者の計５名が参加した。７時に熊手銀天街に集合した後、９時から１７時まで、黒崎井筒屋２階正面入口でハローワーク業務を担当した。小学生１，０８６名を対象とした業務であったため、大変ではあったが、使命感・充実感・達成感などを得て、参加学生にとって非常に有益なものとなった。イベント終了後すぐに、田中大士実行委員会委員長から、来年度以降についても継続的な協力要請が強くあったことから、商学公連携活動としてよいスタートを切ることができた。 3.　効果 参加学生の使命感・充実感・達成感は、来年度への意気込みを感じさせる発言からも窺い知ることができる。また、ちょボラ部は多世代・地域交流活動の推進を目的のひとつとしているが、本事業はこれについても成果を得たと考えている。来年度は、協賛企業の開拓業務、参加小学生に対するアンケート調査・分析の実施など、渉外力の強化、PBL の導入を想定している。
今後の改善内容 及び展開		今年度から取り組み始めた商学公連携活動であるため、ちょボラ部員にとってまだ手探りの状態であり、改善点は多い。来年度は、今年度の経験を活かして実施する。

「黒崎こども商店街 2016」



九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28年度
主催・事業名		主　催：北九州市市民文化スポーツ局地域・人づくり部 事業名：大学生とNPOの交流会
九州共立大学	事業責任者	田中邦博（地域連携推進室長）、梅田勝利（地域連携推進委員会委員）、堂野崎融
	所　　属	共通教育センター、経済学部
	実施担当者	ハク・チリゲル、馬場美里、太田黒夢有人
	所　　属	経済学部4年、3年、2年
	連 絡 先	《電話番号》093－693－3211 《 E-mail 》umeda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》市民文化スポーツ局地域・人づくり部　市民活動推進課 《職・氏名》NPO協働推進担当係長・管田智章 《電話番号》093－645－3101（市民活動推進課） 《 E-mail 》tomoaki_kanda01@city.kitakyushu.lg.jp
事業実施日・回数		11月2日（打ち合わせ）、12月16日　　《計　2　回》
実施場所		深耕館2階S202教室
事業対象者 参加人数		九州共立大学：経済学部4年、3年、2年 事業対象者：梅田ゼミ、堂野崎ゼミの学生 参加者人数：45名
経　　費		なし
事業内容 実績及び効果		1.　事業目的・内容等 本事業は、北九州市における多様な主体による、まちづくりの推進を目的として、大学生とNPOが直接出会う機会を創出するとして開催された。参加団体はNPO法人わくわーく（八幡東区／障がい者福祉）、NPO法人北九州スポーツクラブACE（八幡東区／スポーツ・まちづくり）、NPO法人KID's work（小倉南区／青少年育成）、NPO法人あそびとまなび研究所（若松区／外遊び）、NPO 法人フードバンク北九州ライフアゲイン（八幡西区／フードバンク）の5団体である。本事業は、公共性・公益性が高い企業において、大学生がボランティア活動を行うことに関心を持たせるという、産学官連携活動であり、地域貢献活動であると認識している。 2.　実績 ワークショップAと同様、NPO協働推進担当係長・管田智章氏、株式会社三角形・福岡佐知子氏に地域連携推進室にお越しいただき、本事業の打ち合わせを行った。交流会当日は、大学生とNPOの活発な意見交換・質疑応答が行われ、非常に有益なものとなった。その結果として現状を把握する能力・コミュニケーション能力・課題発見能力の育成のきっかけになったと考えている。 3.　効果 本学経済学部のカリキュラムポリシーの狙いである、課題追求能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、実践力、調整能力を育成することに対して、非常に効果があったものと考えている。
今後の改善内容 及び展開		大学生に、ボランティア活動を行うことに関心を持たせるという目的は果たせたのではないかと考えている。しかし、まだ手探りの状態であり、非効率な点も多い。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		２０１６年度
主催・事業名		主　催：北九州市体育協会・北九州市ハンドボール協会 事業名：小学生ハンドボール教室
九州共立大学	事業責任者	森川壽人
	所　　属	スポーツ学部
	実施担当者	森川壽人
	所　　属	スポーツ学部
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3154 《 E-mail 》t-morikawa@fains.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》北九州市ハンドボール協会 《職・氏名》会長・日野博 《電話番号》093-693-3154（理事長・森川壽人） 《 E-mail 》t-morikawa@fains.jp
事業実施日・回数		前期５月 12 日～7 月 14 日《計８回》・後期９月 20 日～12 月 13 日《計 10 回》
実施場所		北九州市立総合体育館
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学： ボランティア学生：経済学部０名、スポーツ学部３名　計３名 事業対象者：小学生 参加者人数：前期７名・後期６名
経　　費		参加費：前期 4,000 円　後期 5,000 円
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 事業目的：ハンドボールをとおして球技の基本的動きを習得するとともにハンドボールの底辺拡大を図る。 内　　容：ステップワーク・走スピード・スローイング・シュート・パスワーク・カット・１対１・マンツーマン・速攻・ゲームを楽しむための基本ルール・３対３のゲーム 2．実績（参加者） 前期：１年（男子１）、２年（男子３、女子１）、４年（女子１）、５年（男子１） 後期：１年（男子１、女子１）、２年（男子２）、３年（男子１、女子１） 3．効果 走・跳・投の能力が飛躍的に向上した。また、ハンドボールのゲームを正式ルール（Jクイック）で楽しむことができるようになった。
今後の改善内容 及び展開		今年度は前期の開催が木曜日、後期の開催が火曜日であったが、開催曜日が土曜日であれば２倍以上の参加が見込まれた。総合体育館は小倉南区からの参加も可能であるが、開催日（総合体育館は土日の使用がほとんど不可能である）が限られている。本学の施設を使えると参加人数が増えると思われるが、本学は西端に位置し、北九州市全域をカバーすることができないので、開催日と実施場所に課題が残る。将来的にはこの教室の卒業生を対象にクラブチームを作り、恒常的に指導できるようにしたい。

「小学生ハンドボール教室」



九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28 年度
主催・事業名		主　催：芦屋町立芦屋小学校 事業名：小学校ボランティア
九州共立大学	事業責任者	松本　亜紀
	所　　属	スポーツ学部
	実施担当者	松本　亜紀
	所　　属	スポーツ学部
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3062 《 E-mail 》amatsu@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》芦屋町立芦屋小学校 《職・氏名》校長　原　伸明 《電話番号》093-223-0059
事業実施日・回数		前期：平成 28 年５月 11 日～平成 28 年７月 20 日　　《計　11　回》 中期：平成 28 年９月６日～平成 28 年 10 月２日　　《計　６　回》 後期：平成 28 年 10 月 12 日～平成 28 年 12 月 21 日　《計　10　回》
実施場所		芦屋町立芦屋小学校
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：教職課程学生　前期：14 名、中期９名、後期３名 事業対象者：芦屋町立芦屋小学校児童 参加者人数：約 180 名
経　　費		なし
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 本事業は、本学教職課程の学生を小学校にボランティアとして派遣し、体験的学びを通して教職を志す意欲と教員に必要な資質能力を高めることを目的とする。ボランティア内容は、授業補助、休み時間や給食時間の児童の見守り等を担当する。 2．実績 学生１名につき１学級を担当した。学生は担任教諭の指示に従い、学級運営を補助した。 3．効果 ①学生は、児童との関わり方や教え方について体験的に学ぶことができた。これらの体験は、学生にとって今後の教育実習や教員採用試験に向けて大いに役立つと考えられる。 ②大学は、小学校に学生を派遣することにより、大学の授業時間では把握しえない実習現場における学生の課題を把握することができた。
今後の改善内容 及び展開		ボランティアにかかる経費（交通費・給食費）は、全額学生が自己負担している。学生は平均 10 回程度ボランティアに行っているが、１回につき、900 円程度が必要となるため、負担が大きい。また、ボランティアを希望したものの、時間割の都合でまとまった時間が確保できず、ボランティアを断念する学生が散見された。学生が学校現場でボランティアを行うための時間、もしくは機会の確保を検討していきたい。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28 年度
主催・事業名		主　催：芦屋町立芦屋東小学校 事業名：小学校ボランティア
九州共立大学	事業責任者	松本　亜紀
	所　　属	スポーツ学部
	実施担当者	松本　亜紀
	所　　属	スポーツ学部
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3062 《 E-mail 》amatsu@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》芦屋町立芦屋東小学校 《職・氏名》校長　宮村　杉江 《電話番号》093-223-3381
事業実施日・回数		前期：平成 28 年５月 11 日～平成 28 年７月 20 日　　《計　11　回》 中期：平成 28 年９月６日～平成 28 年 10 月２日　　《計　６　回》 後期：平成 28 年 10 月 12 日～平成 28 年 12 月 21 日　《計　10　回》
実施場所		芦屋町立芦屋東小学校
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：教職課程学生　前期：６名、中期６名、後期３名 事業対象者：芦屋町立芦屋東小学校児童 参加者人数：約 180 名
経　　費		なし
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 本事業は、本学教職課程の学生を小学校にボランティアとして派遣し、体験的学びを通して教職を志す意欲と教員に必要な資質を高めることを目的とする。ボランティア内容は、授業補助、休み時間や給食時間の児童の見守り等を担当する。 2．実績 学生１名につき１学級を担当した。学生は担任教諭の指示に従い、学級運営を補助した。 3．効果 ①学生は、児童との関わり方や教え方について体験的に学ぶことができた。これらの体験は、学生にとって今後の教育実習や教員採用試験に向けて大いに役立つと考えられる。 ②大学は、小学校に学生を派遣することにより、大学の授業時間では把握しえない実習現場における学生の課題を把握することができた。
今後の改善内容 及び展開		ボランティアにかかる経費（交通費・給食費）は、全額学生が自己負担している。学生は平均 10 回程度ボランティアに行っているが、1 回につき 900 円程度が必要となるため、負担が大きい。また、ボランティアを希望したものの、時間割の都合でまとまった時間が確保できず、ボランティアを断念する学生が散見された。学生が学校現場でのボランティアを行うための時間、もしくは機会の確保を検討していきたい。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28 年度
主催・事業名		主　催：福岡県立福岡学園 事業名：部活動指導補助ボランティア
九州共立大学	事業責任者	松本　亜紀
	所　　属	スポーツ学部
	実施担当者	松本　亜紀
	所　　属	スポーツ学部
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3062 《 E-mail 》amatsu@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》福岡県立福岡学園 《職・氏名》園長　森本　浩 《電話番号》092-952-2621
事業実施日・回数		平成 28 年 9 月 29 日～平成 28 年 10 月 20 日　　《計　4　回》
実施場所		福岡県立福岡学園
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：スポーツ学部教職課程学生　1 名 事業対象者：福岡県立福岡学園女子児童 参加者人数：約 10 名
経　　費		なし
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 児童自立支援施設「福岡県立福岡学園」で生活している児童たちは、部活動として男子は野球、女子はバドミントンに取り組んでいる。本事業は、福岡学園の児童たちへの部活動指導の補助を通して、保健体育科教員としての資質の向上を図ることを目的とする。 2．実績 学生は福岡学園寮職員の指示の下、女子児童に対しバドミントンの部活動指導補助を行った。 3．効果 ①学生は、児童との関わり方や教え方について体験的に学ぶことができた。これらの体験は、学生にとって今後の教員採用試験や教員としての活動に大いに役立つと考えられる。 ②児童福祉施設である福岡学園での体験により、学生は、児童・生徒理解や対応方法について一般の学校現場とは異なった視点を得ることができた。
今後の改善内容 及び展開		学生は非行少年や特別な配慮を必要とする児童・生徒に関する知識や対応方法について教職課程の授業の中で既に学んでいるが、施設に派遣する前に、教員からもう一度、特別な配慮を必要とする児童・生徒に関する知識や対応方法について指導を行うことで、学生の理解がより一層深まると考えられる。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28 年度
主催・事業名		主　催：　NPO 法人　香月・千代スポーツクラブ 事業名：香月・千代ジュニアスポーツ体験教室
九州共立大学	事業責任者	花田　道子
	所　　属	スポーツ学部
	実施担当者	花田　道子・梨羽　茂
	所　　属	スポーツ学部
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3434 《 E-mail 》hanada@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》香月・千代スポーツクラブ 《職・氏名》香月・千代スポーツクラブ　陣内会長 《電話番号》093-619-0140 《 E-mail 》katukitiyo-sc@uma.bbiqjp
事業実施日・回数		５月 21 日・６月４日・11 日・18 日・25 日・７月２日・９日≪計７回》
実施場所		香月小学校体育館・グラウンド及び畑キャンプ場
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学教員：２名　九州共立大学学生：15 名　九州女子大学学生：20 名 事業対象者：　15 名（香月・千代スポーツクラブスタッフ） 参加者人数：　93 名（小学生）
経　　費		交通費支給
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 北九州市市民文化スポーツ局スポーツ振興課からの依頼で、「小学校の児童を対象に、遊びの要素を持つ運動やオリンピック種目の体験を通じて、生涯にわたり運動・スポーツに親しむきっかけづくりを行う」ことを目的とした事業。 2．実績 ※5 月 21 日の体力測定は、８：30～12：00、７月２日の体力測定は、 ９：30～12：00、７月９日の食育（ｱｳﾄﾞｱ）は９：30～13：00、 それ以外は、10：00～12：00 の２時間実施した。 本学は、スポーツプログラムの企画・立案及び指導を担当した。 3．効果 子どものコミュニケーション力を育むジュニアスポーツ体験教室 子どもたちに必要な能力の一つに、「多様な社会グループにおける人間関係形成能力」がある。しかし、一方で、子どものコミュニケーション力の低下が課題となっている。その理由として、年齢が異なる子ども同士で遊ぶ機会が少なくなったことや、親戚や地域の人など保護者以外の大人と関わる機会が少なくなっていることがあげられる。 香月・千代ジュニアスポーツ体験教室では、毎週土曜日、「おはようございます！」と笑顔で子どもたちがやって来る。年齢が異なる子ども同士がグループとなり一緒に活動する中で上級生が下級生の面倒を見たり、一緒に頑張る姿が見受けられる。 また、スタッフの学生や NPO 香月・千代スポーツクラブのスタッフの方々との関わりから、友達関係をつくったり、維持してくのに必要なコミュニケーションのコツやスキルを学べる場となっている。
今後の改善内容 及び展開		７ 回と言う少ない実施回数の中、子どもたちの体力向上を目指したプログラム作りと指導学生の指導スキルの向上を目指し、今後も、総合型スポーツクラブとの連携を深めながら、北九州市の子どもたちの体力の向上及び健康づくりの促進に貢献したい。

≪平成２８年度　香月・千代ジュニアスポーツ体験教室≫

九州共立大学スポーツ学部　４年　橘田　凌

今年度の香月・千代ジュニアスポーツ体験教室が無事に終了いたしましたことをご報告させていただきます。今年もこうして活動することができましたのもスタッフをはじめ、ボランティアの方々そして保護者の皆様のご協力があったからだと思います。

私は今回全体の指揮者としてこの体験教室に参加させていただきました。約１ヶ月半の活動でしたが、子供を相手に指導することの難しさを実感しました。毎回スタッフとの入念な打ち合わせのもとで行うものの、それがその通りに進まない状況の連続で最初は戸惑いました。しかしそういった時の対応力もスタッフ全員が段々と身に付き、子供たちへの接し方や教え方を工夫して行えるようになりました。今回の活動ではマット運動、跳び箱、ボール運動など様々な運動に取り組みました。低学年、高学年でプログラムを分けてそのレベルにあったプログラムを用意し指導しました。

子供たちの一生懸命取り組んでくれる姿、出来ないことを出来るまで諦めない姿など私たちスタッフはその前向きさにたくさんの勇気とパワーをもらいました。

この活動を通して子供にスポーツを教える楽しさを改めて感じることが出来ました。これからも子供にスポーツの楽しさを伝えていけたらいいなと思います。そして子供たちには前向きな気持ちを忘れずにいろんなことにチャレンジしてほしいと思います。



開会式





準備体操



体力測定（立ち幅跳び）



（　体前屈　）









○体力向上
　プログラム

○アウトドア
　クッキング

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28 年度
主催・事業名		主　催：九州共立大学・九州女子大学アダプテッド・スポーツ研究部 事業名：知的障がい・発達障がい児を対象とした「ニコニコ体操教室」
九州共立大学	事業責任者	花田　道子
	所　　属	スポーツ学部
	実施担当者	花田　道子
	所　　属	スポーツ学部
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3434 《 E-mail 》hanada@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》ニコニコ体操教室 《職・氏名》九州共立大学スポーツ学部　助手　花田道子 《 E-mail 》hanada@kyukyo-u.ac.jp
事業実施日・回数		H28 年５月 14 日～H29 年２月 12 日　第２・第４土曜日開催月２回《計 15 回》
実施場所		九州女子大学　錬成館１階ダンスルーム　・玄海少年自然の家「玄海の家」
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学教員：１名 九州共立大学学生 10 名・九州女子大学学生：40 名 参加者人数：子ども 40 名（きょうだい児含む）
経　　費		
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 知的障がい児及び発達障がい児を対象とし、大学の施設及び知的財産を活用して実施している体操教室。この教室は大学生が、障がいを抱える子どもたちに対して、スポーツの楽しさを伝えることを目的とした地域貢献活動。年に１回１泊２日のキャンプを実施している。 2．実績 月２回（土曜日）の体操教室を午前中（10：00～12：00）実施した。 福岡県立少年自然の家「玄海の家」にて１泊２日のキャンプを企画・運営した。 ２月：子どもたちとのバス遠足を企画・運営。 ２月：「アダプテッド・スポーツ研究部」の活動を「九州キャンプミーティング」にて発表予定。 3．効果 子どもたちは、毎回の体操教室をとても楽しみにしてくれている。学生たちがマンツーマンで子どもたちをサポートすることで、子どもたちはスポーツ活動を楽しむことができる。また、学生たちにとっても発達障がい児に対するスポーツ支援活動をとおして、コミュニケーション能力の改善と向上に寄与していることが考えられる。今年度小学校課程を希望している学生５名が現役で教員採用試験に合格した。即戦力として活躍してくれることと思う。
今後の改善内容 及び展開		学生スタッフのスキルアップを行い、今後も、北九州市の特別支援学校「小池学園」等と連携を深めながら、北九州市の障がい児の余暇支援としてスポーツをとおして、生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進に貢献したい。

≪平成２８年度　ニコニコ体操教室≫



さまざまな運動遊びを取入れ
楽しく身体を動かしています。





車いすで駆け抜けちゃうぞ～！



おあつまり

お天気の良い日はお外で運動







みんな大好きな『ボールプール』

クリスマス会





≪平成２８年度ニコニコ体操教室主催：ニコニコキャンプ≫





スタッフトレーニング



おあつまり







みんなが『楽しめる』を目的に行っています(^^♪









ソーセージ作りに挑戦

保護者プログラム：講師は堀江先生















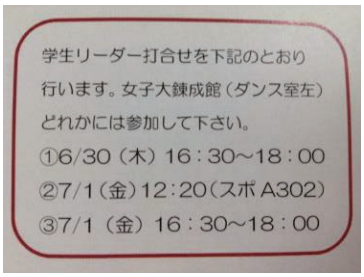
九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28 年度
主催・事業名		主　催：　福岡県教育委員会 事業名：　平成 28 年度　筑豊地区生涯スポーツ指導者等研修会（第２回） 子どもから高齢者までだれもができる「アダプテッド・スポーツ」を体験！！
九州共立大学	事業責任者	花田　道子
	所　　属	スポーツ学部
	実施担当者	花田　道子
	所　　属	スポーツ学部
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3434 《 E-mail 》hanada@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》福岡県教育庁筑豊教育事務所　社会教育室 《職・氏名》担当：社会教育主事　大石眞也 《 E-mail 》ooishi-s7629@pref.fukuoka.lg.jp
事業実施日・回数		平成 28 年 10 月 12 日（水）18：50～20：40　《計　１回》
実施場所		桂川町総合体育館　〒822-1403　福岡県嘉穂郡桂川町大字吉隈 429-26
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学教員：１名 九州共立大学卒業生１名（福岡市障害者スポーツセンター勤務） 九州女子大学学生：２名 参加者人数：　40 名
経　　費		交通費支給
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 　障害のある人もない人も互いに尊重し、支え合う共生社会の実現を目指し、アダプテッド・スポーツに不可欠な情報を共有し、生涯スポーツ指導者としての資質を高める。パラリンピックの種目であるシッティングバレーのルール、道具類、活動方法の説明やふうせんバレーボールのルール、道具類、活動方法の説明を行い、実技指導を行う中で参加者によるチーム編成を行い、実際にゲームを行った。 2．実績 ①ミニ講義『アダプテッドスポーツとは？』 ②アイスブレイキング/準備体操 ③シッティングバレーの実際 ④おあつまり・まとめ：「子どもたちの生きにくさを知ろう」 「身体を動かすと言うことは、心をゆさぶること！」 3．効果 〇指導者が現場に戻ってすぐに使える。 〇障害者スポーツを含むアダプテッド・スポーツへの関心が高まる。 成果 ◇障害者スポーツを含むアダプテッド・スポーツに携わる人が増える。 ◇地域スポーツ指導者の資質向上による地域スポーツを支える人材の養成。
今後の改善内容 及び展開		学生スタッフのスキルアップを行い、今後も、誰もが、いつでも、どこでもできるスポーツ活動の提供ができる、障害者スポーツ指導者の養成に貢献し、市町村生涯スポーツ担当者の資質向上に向けた学習機会や情報の提供を行いたい。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		28 年度
主催・事業名		主　催：中原校区まちづくり協議会子ども部会 事業名：ラジオ体操＆レクリエーション指導
九州共立大学	事業責任者	花田　道子
	所　　属	スポーツ学部
	実施担当者	花田　道子
	所　　属	スポーツ学部
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3434 《 E-mail 》hanada@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者	《機 関 名》子育てネットワーク中原 《職・氏名》平田　久美子
事業実施日・回数		①H28 年 7 月 2 日・②7 月 16 日　《計 2 回》
実施場所		①中原児童館　　②中原小学校
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学教員：1 名 九州共立大学学生 7 名・九州女子大学学生：6 名 参加者人数：①子ども 20 名　②6 年生 50 名　地域の大人 8 名
経　　費		講師謝礼金・交通費支給
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 子育て支援ネットワーク中原では、子どもの成長を地域みんなで支えることを目的に、地域交流プロジェクトの事業として、平成 14 年度より毎年、乳幼児から年長者までを対象としたラジオ体操に取組んでいる。今年で 15 周年を迎えるため、改めてラジオ体操の効果を学んだり、コミュニケーションゲームの手法を学んで、地域の方と交流を深め、健康増進を図る機会とする。 2．実績 15：00～　簡単な自己紹介・今日の流れ説明・レクリエーション □2 人組ジャンケンパチン（武田）□2 人組準備運動（得丸・島田） □ジャンケン列車～キャッチ（西岡）～フープリレー（佐野） 15：20～　ラジオ体操第 1 ※参加者を 4 グループに分ける。①～⑦＋⑧（4・5 年）※参加者は 5 分毎に、学生の①～④グループの指導を受ける。2 班×4 グループ※黄色の人は、3～4 個の動きを完璧に指導できるように準備。（反対向きでできるように）※最後に全員でとおして実施する。6 年生リーダーを前に 15：50～　グループワーク　　①ベースボール　（田中） 3．効果 子どもたちが直ぐに飽きてしまうのではと懸念されていましたが、グループ毎に学生たちが一生懸命指導を行い、子どもたちも一生懸命応えようとしていたことが素晴らしかった。特に 6 年生は前に出てリーダーとしてラジオ体操をすることを楽しみにしており、逆の動きが出来るようにまでなった。地域の中で子どもと大人が一緒に活動できる環境をこれからも大切にして欲しいと思いました。
今後の改善内容 及び展開		今後も、地域のニーズに応えられるように学生スタッフのスキルアップを行い、連携を深めたいと思います。

≪平成２８年度　ラジオ体操＆レクリエーション指導≫







レクリエーション



じゃんけん列車





みんなとっても仲良くなりました(^^♪



ラジオ体操





キャッチ





九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		H28 年度
主催・事業名		主　催：九州共立大学総合研究所 事業名：「太陽光と風力を利用した親子ものづくり教室」
九州共立大学	事業責任者	牧角 龍憲
	所　　属	総合研究所 所長
	実施担当者	山口 静夫
	所　　属	総合研究所 特別研究員
	連 絡 先	《電話番号》(093)693-3033 内線 242 《 E-mail 》yama1218@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》 《職・氏名》 《電話番号》 《 E-mail 》
事業実施日・回数		8 月 20 日(土)・8 月 21 日(日)　　《計　2　回》
実施場所		九州共立大学 経済学部 第一学舎 1 階 大会議室、11 番教室
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：先生 4 名とアルバイト学生 13 名で教室を運営 事業対象者：幼稚園年長～中学 1 年生 参加者人数：子ども 110 名とその保護者(弟・妹も含む)106 名の合計 216 名
経　　費		￥368,350
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 日本のものづくり技術の継承と持続的な発展という観点により、子どもの早い時期から「ものづくり」を通じて、太陽光や風力などの自然エネルギーによる発電や簡単な電子回路のハンダ付けについて体験する。今回の工作テーマは次の 5 テーマから成ります。幼稚園年長から小学生低学年向きの輪ゴムで動作する①スカイコプターと太陽光で動作する②ソーラーオルゴール、中学年向きの風力で発電する③ペットボトル形風車。さらに高学年以上向きのマブチモータのシャフトの回転と摩擦を利用した④ペンギンロボットおよびスーパーキャパシタの蓄電効果を利用した⑤ペットボトルウインドカーを作成する。これによりものづくりの面白さと完成時の達成感を体感する。 2．実績 平成 14 年 8 月に最初の「小学生ものづくり教室」を本学総合研究所主催で開催し、それ以後ほぼ毎年開催して今回で第 14 回目となりました。その間、平成 20~24 年は、科学技術振興機構(JST)の科学コミュニケーション推進事業の地域活動支援による支援金で開催いたしました。すでにこの教室に参加された子どもが 1383 名および保護者が 1020 名程度に達しています。最初に参加された子どもたちはすでに 20 代中頃です。 3．効果 参加者からは、「学生さんや先生の熱心な態度がとても気持ち良く、楽しく子供と学べました」や「ハンダづけが初めてだったけど、丁寧に作り方を教えてもらえました」など、喜びの声もたくさんあり、夏休みの「ものづくりの自由研究」ができる場として好評な 2 日間の工作教室となりました。また今回は「体験イベント in 大学」のインターネット情報配信により周知した結果、東京～神奈川から 10 名程度の子どもたちの参加がありました。今後、本学が子どもたちのものづくりの核になりつつあります。
今後の改善内容 及び展開		今後は「小学校の先生方すなわち指導者を対象に科学やものづくり教室」を開催したいと思います。さらに、小・中学生の理科(主にエネルギー)に関する出前授業や科学およびものづくりの出前教室を行いますので、気軽に声をお掛けください。

「太陽光と風力を利用した親子ものづくり教室」

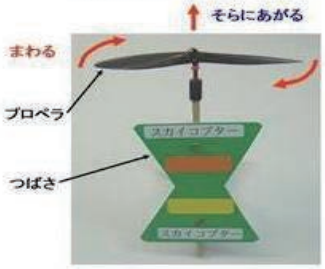




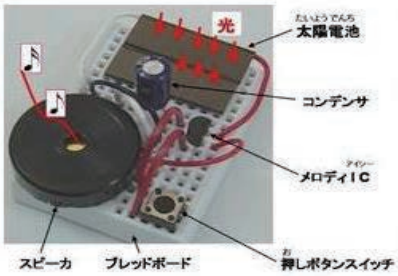


太陽光と風力を利用した親子ものづくり教室の工作テーマ

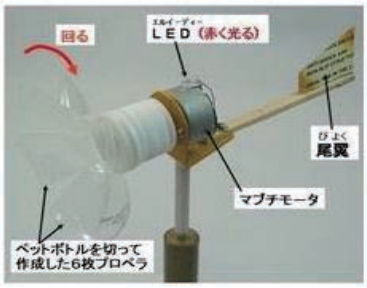
A：スカイコプター



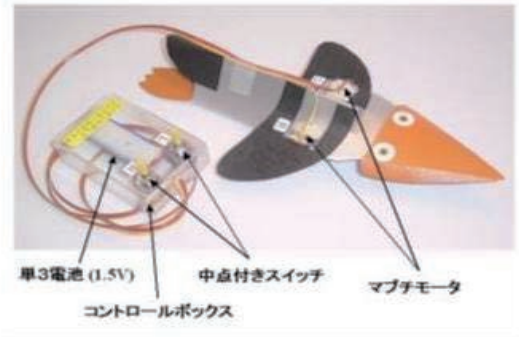
B：ソーラーオルゴール



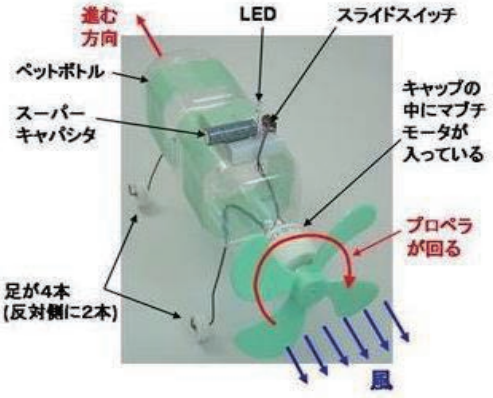
C：ペットボトル形風車



D：ペンギンロボット



E：ペットボトルウインドカー







九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		２８年度
主催・事業名		主　催：公益財団法人健康・体力づくり事業財団 事業名：健康運動指導士養成講習会【福岡会場】
九州共立大学	事業責任者	樋口　行人
	所　　属	スポーツ学部
	実施担当者	樋口　行人
	所　　属	スポーツ学部
	連　絡　先	《電話番号》093-693-3313 《 E-mail 》higuchi@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機　関　名 責　任　者 連　絡　先	《機 関 名》公益財団法人健康・体力づくり事業財団 《職・氏名》指導者養成部　草苅　有里恵 《電話番号》03-6430-9115 《 E-mail 》kusakari@health-net.or.jp
事業実施日・回数		９月　１１日　　《計　　１回》
実施場所		TKP 博多駅前シティセンター
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：講師１名 ボランティア学生：経済学部　０名、スポーツ学部　０名　計　　０名 事業対象者：講習会受講者 参加者人数：76 名
経　　費		公益財団法人健康・体力づくり事業財団より支出
事業内容 実績及び効果		1．事業目的・内容等 当財団は、「国民に対する健康・体力づくりの普及啓発」を使命とし、その事業の一つとして、「健康運動指導士」という運動指導者の養成及び資格認定を行っている。 この度、養成講習会の講師として依頼を受けた。養成講習会テキスト第 15 章「栄養・食事アセスメント（低栄養対策含む）」の講習を 90 分間受け持った。 2．実績 ロールプレイを用いたため、興味を引けたと思われる。つつがなく行われ、事後の質問も活発で好評であった。財団の方がよく言ってくれるのでやりやすい。本学卒業生も３名受講していた。 3．効果 福岡会場ということで、今後健康指導士となり、この地域の健康を担っていく人材の育成に貢献できた。また、単発の講義にとどまらず、引き続きのネット学習システムの紹介、勧誘を行っている。口コミも大きいと思われる。財団の情報、講師としていらしていた他大学の先生の情報も有益であった。
今後の改善内容 及び展開		健康運動指導士育成は地域活性化にもつながると思われるので、講習会以外の部分でも協力していきたい。ネット学習システムはその一端である。

平成２８年度　地域連携推進室の業務成果

月	日	曜日	地域連携推進委員会･地域連携協議会・地域連携推進事業評価委員会の開催等と協定・覚書の締結
6	3	金	第１回地域連携推進委員会
7	1	金	第２回地域連携推進委員会
8	5	金	第３回地域連携推進委員会
	23	火	第１回地域連携協議会
9	6	火	第４回地域連携推進委員会
10	5	水	第５回地域連携推進委員会
11	2	水	第６回地域連携推進委員会
	25	金	第２回地域連携協議会
12	7	水	第７回地域連携推進委員会
1	11	水	第８回地域連携推進委員会
	18	木	九州共立大学と北九州市によるスポーツの振興及びスポーツによるまちのにぎわいづくり並びに人材育成等に関して連携・協力するための包括連携協定
			九州共立大学共通教育センターによるインターンシップに関する覚書
2	1	水	第９回地域連携推進委員会
	24	金	地域連携推進事業評価委員会
3	2	木	第１０回地域連携推進委員会

九州共立大学
KYUSHU KYORITSU UNIVERSITY

平成 28 年度　九州共立大学『地域貢献・連携事業』報告書
発行　平成 29 年 4 月

学校法人福原学園

九州共立大学　地域連携推進室

〒807-8585　北九州市八幡西区自由ケ丘 1-8
TEL＆FAX　093-693-3255　　E-mail　renkei-2015@kyukyo-u.ac.jp